

「ましき」に光る若い



熊本地震から6か月半。
復興へと歩みを進めている益城町。
このような中、
町を盛り上げていこうという
元気な若者を紹介します。

『益城町に
気球を飛ばそう!!』～バルーンでスマイル
プロジェクト～

「益城町のみんなに笑顔になってほしい」とスタートした『益城町に気球を飛ばそう!!』～バルーンでスマイルプロジェクト～。代表の三村一誠さん(東無田)が阿蘇市にある体験型アウトドアショップ「阿蘇ネイチャーランド」(坂田秀樹代表取締役の協力)で実現。すでに6月、8月、9月の3回、町内で気球を飛ばしています。

始めたきっかけは、震災から1か月後の三村さんと坂田さんの「気球を飛ばしたいね」という会話でした。その後すぐに中学時代の同級生、職場や地元先輩・後輩がメンバーに加わりました。

気球は、人を乗せて上昇し降りてくるという体験型。これまで、町内の小学校で子どもたちやその保護者、地域の人たちを乗せ、みんなに笑顔

を届けてきました。ブルーシートが残る町並みも気球から見ると、不思議と元気になる。大人を元気に、子どもたちを笑顔にしてくれます。

メンバーの川端康晶さん(安永3町内)は「気球が立ち上がるの場所も見てほしい。『こうやって膨らんで、立ち上がるんだ』と感動します。おもしろいですよ」と話してくれました。

「現在、『自分の学校や地域で気球を上げたい』という人を募集しています。僕たちの気球は、メンバーではなく、PTA、ボランティア、地域の人に主になってもらっています。田んぼなどの場所やけん引するためのトラクターの準備、上げ下げするときのス



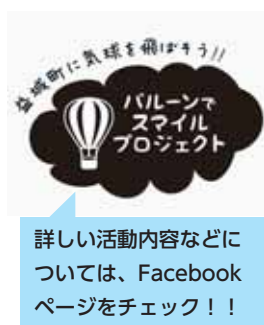
メンバー【右から】川端康晶さん(安永3町内)、三村一誠さん(東無田)、高本梢さん(安永1町内)、宇佐見久子さん(熊本市南区)【撮影】小林憲正さん(熊本市中央区)

タッフ、地域の人たちへの広報活動は自分たちだけではできません。皆さんの協力が不可欠です」

代表の三村さんは「今後は、町内の小中学校や地域で気球を飛ばしていくことはもちろん、3年、5年と区切り区切りでやりたい。『こんなに頑張っていったね』『ようやくここまで来たね』と話せればと思います。5年前と変わった、復興した町の景色を楽しんでほしい」と目標に向かって気球と共に飛び続けています。



気球プロジェクトの日には、たくさんの人でにぎわいます(写真は東無田地区)



詳しい活動内容などについては、Facebookページをチェック!!